

平成27年2月10日

超小型モビリティの導入促進に向けて

平成25年1月に超小型モビリティの公道走行を可能とする基準緩和認定制度が創設されたことから、関東運輸局管内では、この認定制度を活用して、これまでに10カ所113台の超小型モビリティが運行されており、今後さらなる普及促進が期待されているところです。

今般、こうした事例について広く紹介することで、地方公共団体等における今後の導入を後押しするため、全国で初めて「関東運輸局管内超小型モビリティ導入事例集」と「超小型モビリティ導入の手引き」を作成しましたのでお知らせします。

「関東運輸局管内超小型モビリティ導入事例集」は、平成25年6月に神奈川県が全国で初めて超小型モビリティの認定を受けて以降、これまでに関東運輸局管内で導入された事例を紹介することで今後の導入を促進するために作成したものです。

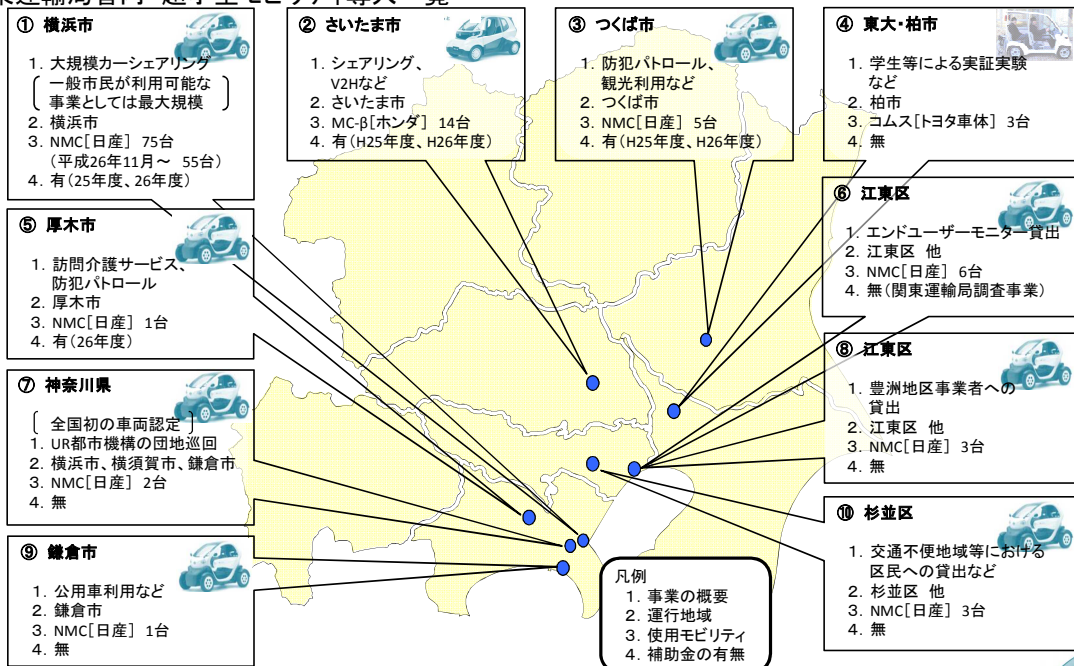
○ 関東運輸局管内超小型モビリティ導入事例集・・・・・・・・・・（資料1）

また、「超小型モビリティ導入の手引き」は、超小型モビリティの基準緩和認定を受けるために必要な手続きについて記載した手引き書となっています。

○ 超小型モビリティ導入の手引き

http://www.tbl.mlit.go.jp/kanto/press/date/1502/ct_p150210_2.pdf

関東運輸局管内 超小型モビリティ導入一覧



※この他、(株)セブン-イレブン・ジャパン、コボット(株)などにおいて、基準緩和の必要のない超小型モビリティが導入されています。

連絡先

関東運輸局自動車技術安全部

技術課 掛川、久手

TEL 045-211-7255

FAX 045-201-8813

〔配布先〕

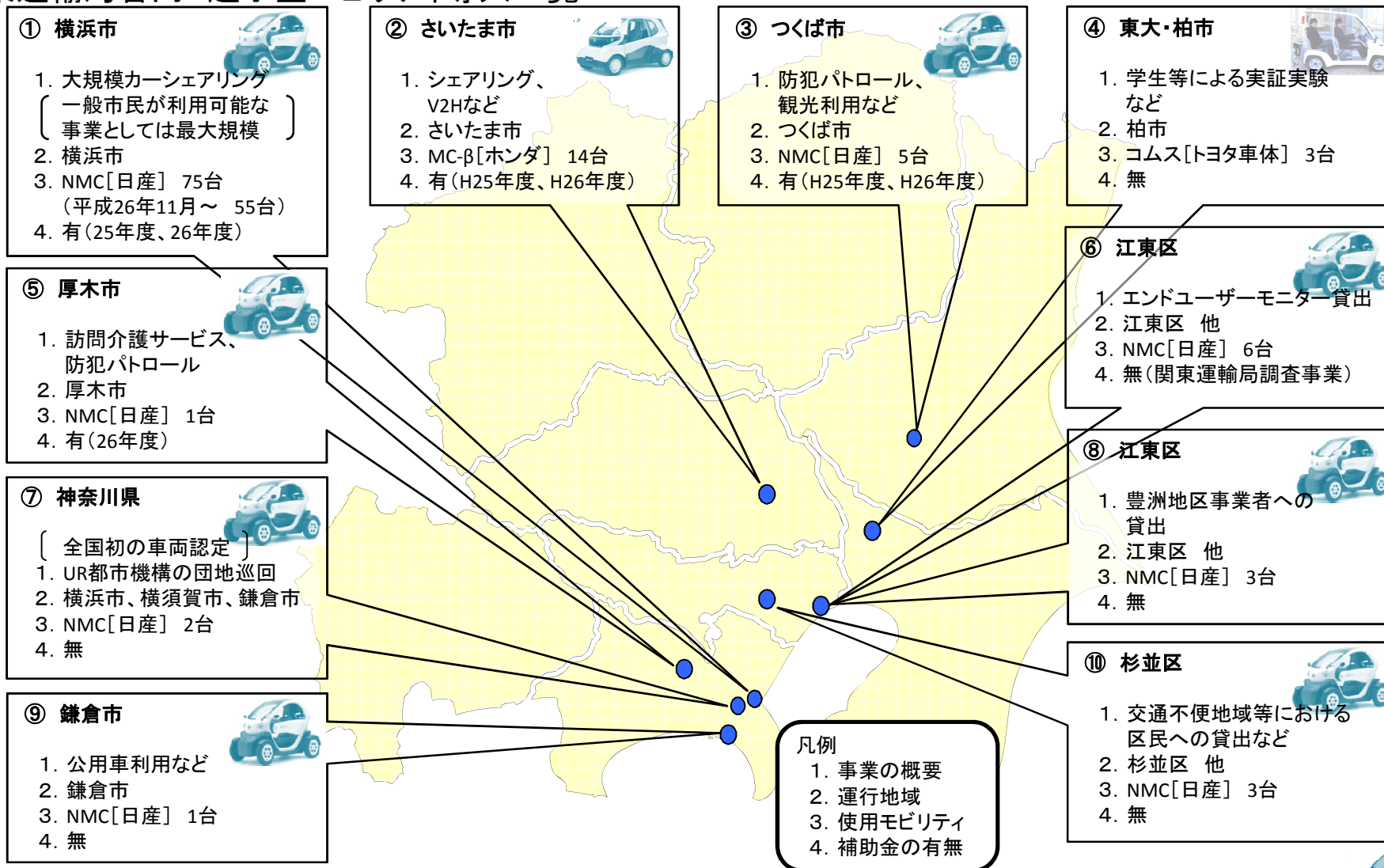
横浜海記者クラブ、神奈川県政記者クラブ、関東運輸局記者会（ハイタク等専門紙）、物流専門紙、東京都庁記者クラブ、埼玉県政記者クラブ、群馬県政記者クラブ、千葉県政記者クラブ、茨城県政記者クラブ、栃木県政記者クラブ、山梨県政記者クラブ

The background image shows two white Nissan supermini cars parked on a paved surface. The car in the foreground has its driver-side door open, revealing the interior. It has a yellow license plate with the text 'つくば583' and 'あ29-85'. The car in the background is also a similar model, with its driver-side door open. The scene is set outdoors with trees and a fence in the background.

関東運輸局 管内 超小型モビリティ導入事例

2015.2.10

関東運輸局管内 超小型モビリティ導入一覧



※この他、(株)セブン-イレブン・ジャパン、コボット(株)などにおいて、基準緩和の必要のない超小型モビリティが導入されています。



① 横浜市

概要

主に横浜都心エリアに配置した約60拠点のステーション（約115台分※1）と50台※2の車両を活用し、好きなステーションで借りて違う所で返却できるワンウェイカーシェア。2013年10月から1年間の実証実験を終え、2014年11月から第2期開始。第1期で浮き彫りとなった平日の稼働率向上や、事業モデルの構築などの課題解決にむけ11,000名を超える個人会員、ステーション提供者、横浜に拠点を置く企業/団体など、様々な支援を受けながら「みんなで環境未来都市・横浜の未来を創ろう」という活動を目指す。

※1 第2期（第1期は約130台）※2 第2期（第1期は70台使用）

実施主体

横浜市、日産自動車

実施エリア

横浜市内

実施時期

2013年10月～

利用車両

日産ニューモビリティコンセプト（75台）
（うち5台は管理用車両）

利用者

チョイモビ ヨコハマ登録者

普通自動車免許保有が前提、申込の後、所定の講習受講が必要

反響／利用者の声

・近所にもステーションができ、徒歩、車、電車やバスと違う、新しい移動手段として活用できそうである。また、信号待ちの間に、街を行き交う人々から何度も声をかけられるなど、新しいコミュニケーションも生まれた。

・電車で横浜駅まで行き、中華街、山下公園、赤レンガ、みなとみらい周辺の観光スポットへチョイモビと徒歩を組み合わせて移動。これまでは1日に多くて2箇所程度しか回れなかったところ、より多くのスポットで食事や観光を楽しむことができた。みなとみらいの移動が楽ちんです。

・子供達が追いかけてきた。チョイモビには笑顔が似合う。

URL

<http://www.choi-mobi.com>



② さいたま市

概要

さいたま市職員による公用車利用や一般ドライバー向け試乗会等を通じて超小型モビリティの認知度の向上を図るとともに、大宮駅から半径2～3km圏内に34カ所のステーションを設けたワンウェイ型のシェアシステム「超小型EVにサクサク乗ってみませんか？」を実施し、既存の公共交通、コミュニティサイクルとの連携や用途による使い分けを検証する。
また、「次世代自動車・スマートエネルギー特区」において、スマートコミュニティの住民によるエネルギーマネジメントシステム等との連携や子育て世代の利用を想定した公共施設や商業施設と連携を想定した街づくりを進める。

実施主体 さいたま市小型電動モビリティ **実施エリア** さいたま市内
利活用推進協議会

実施時期 2014年2月～ **利用車両** ホンダ マイクロコンピューター・プロトタイプβ
(14台)

利用者 さいたま市職員、市民モニター、市内企業モニター、市内自治会モニター等
なお、カーシェアリングは専用HP会員登録した者

反響／利用者の声

- ・EVをカーシェアできるという先進的なサービス
- ・クルマ自体については運転の利便性が高く、周りとのコミュニケーションや空気を感じる
- ・本格的な普及を期待する

URL <http://www.city.saitama.jp/001/009/004/index.html>



③ つくば市

概要

つくば市では、移動手段における自動車への依存度が高く、市内の自動車移動のうち8割以上が1～2人での移動であるという背景を受け、環境モデル都市行動計画「つくば環境“SMILe”」において、低炭素車の普及促進や低炭素な移動手段への転換を重要施策に掲げ取り組んでいる。

その一環として超小型モビリティによる通勤、ビジネス、個別配送、コミュニティシェア、学生利用などの実証実験を行い、短距離移動手段を多様化させた、新たな低炭素交通スタイルの創造を目指している。

実施主体

つくば市

実施エリア

つくば市内

実施時期

2014年5月～

利用車両

日産ニューモビリティコンセプト（5台）
トヨタ車体 コムス（5台）

利用者

職員通勤実験等の関係者、筑波山観光客、環境モデル街区居住者

反響／利用者の声

・短距離を一人で乗るとき、車体が大きすぎてガソリン使用量も気になっていたため、このようなサイズは大歓迎。

・あまり荷物のない移動には活躍しそうですが、原付バイクを使用した場合と、費用対効果、環境負荷への差がどれくらいあるのか気になった。

・「定刻までに移動」という通勤時の利用には急ぐ車両に追われる感覚があった。

URL

<http://www.city.tsukuba.ibaraki.jp/14215/14284/9593/016277.html>



④ 柏市

概要

柏市は、エネルギーの時給、高齢化、新産業創出といった喫緊の課題について、市民、事業者、大学、行政が一体となった公民学連携した取り組みによって解決をはかるモデル都市計画を進めている。この一環として、小回りがきき、高齢者でも手軽に利用できる個人交通用車両として、家族送迎等に利用できる実用性の高い2人乗りの超小型モビリティを活用。1人乗り超小型電気自動車を改造して公道で社会実験を行う。また、柏市役所職員の公務にも使用し、社会実験を行う。

実施主体

東京大学・柏市
超小型モビリティ協議会

実施エリア

柏市内

実施時期

2014年4月～

利用車両

トヨタ車体 コムス（3台）

利用者

東京大学内外の実験協力者。
柏市役所職員。

反響／利用者の声

- ・ 車体が小さく、小回りが利きくので、用務先訪問などに非常に便利。また、横道から本線への合流も容易。
- ・ 普通自動車が駐車するスペースはコムスでは広すぎるほどで、駐車が簡単なだけでなく、ドアが無いので乗り降りも楽。
- ・ 里山（雑木林）整備の際に非常に便利。
- ・ 田畑の見回りには軽トラックは大きすぎ、コムス程度がちょうどよい。あぜ道に乗り入れるだけでなく、畑の中の畝にも入れればさらに便利。

URL

http://www.k.u-tokyo.ac.jp/info/entry/22_entry310/



⑤ 厚木市

概要

①玉川グリーンホーム（介護老人福祉施設）での、道幅が狭い訪問先や、深夜の訪問が多い訪問介護スタッフの移動手段として、超小型モビリティの機動性や静寂性などを活かし、地域の新しい交通手段の可能性を探る実証実験。2014年1～3月に冬期の実証実験を行い、2度目は7月以降、梅雨や猛暑時などを検証。親しみを込めて「たまもび号」と名付けた。厚木市は「環境先進都市」「交通先進都市」の構築を目指すため日産自動車と「厚木市・日産自動車グリーンモビリティ・プロジェクト協定」を締結し「先進モビリティが世界で一番身近にある街」をコンセプトに取り組んでいる。②2015年より防犯パトロールとしても活用。

実施主体

厚木市

実施エリア

厚木市内

実施時期

①2014年1月～3月/ 8月～11月
②2015年1月～3月

利用車両

日産ニューモビリティコンセプト（1台）

利用者

①玉川グリーンホームの介護訪問スタッフ
②ブルーライン（神奈川県警厚木警察署長委託自主防犯パトロール隊）

反響／利用者の声

・ 普段は玄関先までしか見送らない被訪問者が、車を見るために門の外まで見送りに来たり、会話の話題になるというのがあった。訪問先は一人暮らしの方も多く、屋外に出ることや会話をする事は、介護、福祉的な視点からも重要であり、超小型モビリティにより訪問介護の成果が向上した。

・ 軽自動車では入れない場所に入ったり、駐車できた。

・ 住宅地と山間部が混在する地域では、「たまもび号」1台で効率的にまわれた。

URL

<http://www.city.atsugi.kanagawa.jp/wadai/machi/d026986.html>
<https://ja-jp.facebook.com/blueline.atsugi>



⑥ 江東区

概要

超小型モビリティを普及させるための必要な方策を抽出するため、一般生活者にモニター車両を提供し、エンドユーザーの活用実態を把握する。

実施主体

江東区

実施エリア

江東区、中央区、港区、千代田区

実施時期

2014年7月～2014年9月

利用車両

日産ニューモビリティコンセプト（6台）
（うち2台は管理用車両）

利用者

東雲地区の子育て、DINKS、シニア、高齢者世代4世帯。

反響／利用者の声

- ・ 調査期間：平成26年7月19日（土）～9月20日（土）
- ・ 走行距離：モニター4世帯で延べ1,851km
（期間中、最も走行した世帯は、1,013km）
- ・ 1日あたりの平均走行距離（総走行距離／稼働日数）：約19km
- ・ 1充電あたりの走行距離（総走行距離／充電回数）：約51km
- ・ 主な意見
駐車スペースをとらないため、駅などの送迎で待っている場所を探しやすい
事故が起きた時の被害の大きさが心配

URL

http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/press/date/1407/ct_p1407152.pdf



©mieko SHIMADA / Studio Frog

⑦ 神奈川県

概要

団地巡回管理業務（団地内の巡回点検、団地内設備の修繕・維持管理等）において、隣接する団地間や大規模団地敷地内での移動手段として、CO2の削減効果、高齢化社会対応や環境配慮等への取り組みにかかる企業PRとしての可能性や有用性を検証する。また、神奈川県内の大規模住宅団地、左近山団地において、地域の生活支援等ふれあい助け合い事業（例えば、高齢居住者に対する買い物支援・見守り）として、各活動団体及び団地居住者等地域住民が試用し、地域活性化における有用性や地域におけるモビリティの可能性を検証する。

実施主体

UR都市機構

実施エリア

横浜市、横須賀市、鎌倉市

実施時期

2013年6月～ 2014年3月

利用車両

日産ニューモビリティコンセプト（2台）

利用者

UR都市機構職員、NPO法人オールさこんやま

反響／利用者の声

- ・コンパクト故に楽に運転でき、助手席側の車両左側がはっきりと視認できた。
- ・電動車両だから全く無音のため、運転しているという感覚がなくなることや心配していたが、窓がないためか、モーター音が車室内に適度に入り込むのでかえって安心できた。
- ・徒歩では遠く、これまでの業務車両では大きすぎて乗り入れを躊躇するような場所への乗り入れにも期待できる。
- ・徒歩バス便しかない、それも遠回りして時間が掛かる左近山団地にあっては、公共交通機関の補完として機能すると思う。

URL

<http://www.pref.kanagawa.jp/prs/p668950.html>



⑧ 江東区

概要

豊洲グリーン・エコアイランド構想に基づくまちづくりにおいて、豊洲地区事業者モニター車を一定期間貸出しすることで、近距離（半径5km圏内）日常的な移動手段としての活用可能性を調査するとともに、車両の有効利用の観点から、住宅展示場での充電デモや同乗体験試乗会等の来場者向けの各種イベントにおいて活用する。

実施主体

江東区

実施エリア

江東区、中央区、港区、千代田区、品川区

実施時期

2014年10月～

利用車両

日産ニューモビリティコンセプト（3台）

利用者

豊洲地区事業者及び豊洲スマートハウジングセンター関係者

反響／利用者の声

- ・ 操作が簡単で運転しやすいと感じた。
- ・ 乗っていておもしろい。荒天や暑い寒いには弱いですが、バイクより安全で、地面に近い分スピード感もある。
- ・ 思った以上の加速感があり、アウトドア感覚にあふれ、気持ちがいい。
- ・ 風を感じる乗り心地が気持ちよかった。
- ・ 環境にやさしい感じがして、運転していて気持ち良かった。

URL

<http://www.city.koto.lg.jp/seikatsu/toshiseibi/7722/toyosu.html>



⑨ 鎌倉市

概要

従来より環境意識の高い鎌倉市では、慢性的な渋滞解消、安全安心な移動環境に加え、環境への負荷軽減が緊急の課題であり、「まちづくり」の視点から、市の公用車として狭い道路の多い鎌倉にあった移動手段として、災害時の移動手段として活用。特に公共交通不便地域の住民に対してのカーシェア、訪問介護や在宅医療、観光拠点周辺への観光目的の車両進入を排除することによる移動手段と超小型モビリティを活用。

実施主体

鎌倉市

実施エリア

鎌倉市内

実施時期

2014年1月～2月

利用車両

日産ニューモビリティコンセプト（1台）

利用者

鎌倉市職員

反響／利用者の声

- ・ 狭い道路にも楽に進入できる
- ・ 駐車時に余地を気にせず駐車できる
- ・ 狭い道でもすれ違いが容易（歩行者、特に車いす）
- ・ 小回りが利く。小さなスペースでも容易に転回が可能。

URL

<https://www.facebook.com/photo.php?v=564193383657784&set=vb.333828826694242&type=3&theater>



⑩ 杉並区

概要

杉並区内の交通不便地域及びその近隣に居住する区民にモニター車を貸出することで、近距離（半径5km圏内）の日常的な交通手段としての利便性等について検証する。また、区の公用車として職員の移動手段としての活用可能性について調査するとともに、区内のイベント等において杉並ナンバーのPR車両としても利用する。

実施主体

杉並区

実施エリア

杉並区、中野区、新宿区、渋谷区、
世田谷区、練馬区

実施時期

2014年10月～

利用車両

日産ニューモビリティコンセプト（3台）

利用者

交通不便地域及びその近隣に居住する区民
杉並区職員

反響／利用者の声

- ・ 手軽さが非常に良い。
- ・ 年をとったから利用したい。
- ・ 運転しやすそうで魅力的。販売してほしい。
- ・ かわいい。オシャレだから利用したい。
- ・ ごみの持ち取りパトロールに活用できそう。
- ・ バイクの代わりに利用したい。
- ・ 花粉症なので窓がないのは残念。
- ・ 子どもの幼稚園送迎に使える工夫が欲しい。

URL

<http://www2.city.suginami.tokyo.jp/library/file/261117suginaminambershuppatushiki.pdf>



⑪ 株式会社 セブン-イレブン・ジャパン

概要

少子・高齢化、有職女性の増加の一方、小売り店舗は減少しており、全国のあらゆる地域で買い物がしづらい環境になってきており、CO2削減も国家的課題である。流通・小売りの立場から、この社会課題を解決するため、配達効率の高い超小型モビリティを活用した商品配達を通じた買い物不便の解消および、地域住民とのコミュニケーションを通し、地域の方々の生活の質の向上に寄与していく中で、有用性を検証。

実施主体 株式会社 セブン-イレブン・ジャパン 実施エリア 全国

実施時期 2013年4月～ 利用車両 トヨタ車体 コムス（552台）

利用者 セブン-イレブン・ジャパンのフランチャイズ店舗

反響／利用者の声

- ・超小型EVが導入され、お客様に認知されるとあわせてお届けの件数が増加した。

- ・お客様のお宅にうかがうと、買い物に来られないお客様がどれだけ困っているかがわかります。“わざわざ悪いねえ”と喜んでくださると、“お役様を大切に作る心”をますます育んでくれる。

- ・目新しく目立つ車両やステッカー、30kgまで積める荷台、旋回能力が高く幅の狭い車体で住宅街の狭い道路も通行しやすいなど、配達に向いている。

URL <http://www.7meal.jp>



⑫ コボット株式会社

概要

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス周辺の新しい街づくり計画の中で、低炭素・集約型周辺都市モデル形成にむけての実証実験。事業化実現にむけて、3台の1人乗り超小型モビリティを利用した大学を起点としたシェアリングシステムを導入。未来型都市交通として要求されるシステムなどのアイデアを学生から広く収集する。

実施主体

コボット株式会社

実施エリア

藤沢市（慶應義塾大学藤沢キャンパスより半径3 km）

実施時期

2013年7月～2014年3月

利用車両

トヨタ車体 コムス（3台）

利用者

慶應義塾大学内のモニター登録者、会員登録をして講習会受講後、利用カードの発行を受けると無料で利用可能

反響／利用者の声

- ・原付に比べてヘルメットがないのが良い。ガソリン車に比べると運用費が安く、バスはいつも込んでいるので、ストレスがたまるので、コムスを利用したい。

- ・自転車とバイクのシェアリングなら利用しないが、コムスだと急な雨にも対応しているし、行った先の駐車スペースが少なくて済むので普通の車より気軽に乗れる。

- ・単身赴任しているが、コンビニ以外は歩く気がしなく、クリーニングや買い出しに便利。役所出先機関にも行った。

URL

<http://sfccclip.net/news2013122704/>

